

## 1. 活動報告（事務局 記）

—4月3日（木） 10時より会計監査 会長他三役と観察隊隊長、監査役計7名出席  
総会前準備、厚東川水系・・・協議会との会議事前打ち合わせ

— 4月5日（土）平成20年度ビオトープ総会が28名の出席者でとり行われました。  
主だった決議は以下の通りです。

①会長、副会長、監査役、他全世話人は継続で了承されました。

②会報編集委員と観察隊指導員は西原さんに一任し、希望者又は指名をお願いする事になりました。

③19年度活動報告了承されました。

④19年度会計報告及び監査報告了承されました。

⑤20年度活動計画と予算案了承されました。

イ) 特に合鴨農法は問題あるものの継続試行する。

ロ) 池ゾーンの浮島を繋ぐ島拡大工事実施を進める。

⑥里山自然観察隊の継続実施案が了承されました。

⑦その他

イ) 合鴨農法活動の矛盾点について協議しました。

ロ) 合鴨による蓮池から湿地帯までの水質調査報告水質浄化の  
設備をテスト的に取り付け調査をすることになりました。

ハ) 電話連絡網の改定が説明されました。

会報製作、環境活動等の多数の発案や意見交換などが続出し、有意義な総会は無事終了しました。

—4月18日（金）予定。厚東川水系 森・川・海 水環境ネットワーク協議会との打合せ  
三役出席

—4月19日（土）午前 ①ビオトープ内のエコアップ。(特に池ゾーン内のアサザの間引き  
湿地帯のオオフサモの除去)

②池ゾーン排水汚濁防止の為の排水溝別位置に製作、竹粗朶の仮製作

③池ゾーンに新しく浮島製作下準備

午前の活動は23名の参加で山大の関根先生教室の2名の応援も得て活動が実りの多い物になりました。

午後 「里山自然観察隊」発会式後食べられる野草の探索採取を行い、てんぷらにして試食しました。隊員は41名の参加で保護者会員31名で、食べられる野草採取は、お父さんお母さんと一緒になってビオトープ周辺を駆けずりまわしてにぎやかに終了しました。指導員も18名で小さなお子さんも含め90名以上の賑わかしい活動になりました。

— 4月20日（日）本日宇部青年会議所の催し物が行なわれ、当会から今井会長、西原会員、美濃和会員、北村会員と事務局の原田5名にてご案内、対応いたしました。青年会議所の志賀理事長他スタッフ9名子ども20名親御さん20名の参加があり、よその環境グループの活動も参考になりました。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

### ◎ 見学者

- 6月7日（土）きらら子どもエコクラブ一行の観察会があります。当会から案内指導者を依頼されています。

### ◎ 行事

- 5月4日（日） 維持活動（草刈りなど）浮島製作
- 5月17日（土） 午前 駐車場の草刈り、池内浮島拡大作業、湿地帯エコアップ  
午後 里山自然観察隊（野鳥観察）

## 3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

- 3月13日（木）自然との一体感がとてもよいと思いました。優しい気持ちにさせてくれるこの場所がいつまでもこのままであって欲しいと思います。（阿知須の二人づれ）

## 4. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

4月19日の里山自然観察隊で子どもたちに探してもらったカラスノエンドウの仲間の3種をご紹介します。

まず一番どこにでもあるカラスノエンドウ、これは豆のさやが黒く熟すことから、カラスの黒色にたとえて付けられた名前です。実は今まで「カラスのエンドウ」だと思っていましたが、実は「烏野豌豆」と漢字で書き、野エンドウのカラスバージョンという意味でした。野エンドウのスズメバージョンが「雀野豌豆」です。ではカスマグサとは何かというと、カラスとスズメの間という意味で、「カ・ス間草」と名付けられました。何とも安直な命名のようですが・・・

その見分け方ですが、まずカラスノエンドウは大きく、スズメノエンドウとカスマグサは背丈も葉も小さいという違いがあります。スズメノエンドウとカスマグサの違いは、茎の先端の巻きひげがスズメノエンドウは3～4本に枝分かれしているのに対し、カスマグサは枝分かれせずに1本です。花も明らかに違いがあり、カラスノエンドウは大きい赤紫色の花を葉の付け根に1個付けますが、スズメノエンドウは白色の小さい花が4個、カスマグサは白っぽい赤紫色の花が2個です。種子も違います。エンドウ型のさやの中に、カラスノエンドウは種子が10個ほど、スズメノエンドウは2個、カスマグサは4個です。カスマグサは、花の数や色、種子の数に至るまで、カラスノエンドウとスズメノエンドウの間、ということでカスマグサなんですね。

これら3種は、てっきりエンドウ属だと思っていましたが、実はソラマメ属に分類されています。日本にはエンドウ属の野草はなくて、サヤエンドウやグリーンピースなど、野菜として栽培されているエンドウの仲間は、オリエントから地中海にかけての地方で麦の農耕が始まると同時に改良されていったものだそうです。そしてカラスノエンドウも、古代オリエントの時代はエンドウと同じように栽培されていたらしいのですが、いつしか見捨てられて雑草扱いになってしまい、日本には麦と同時期に入ってきた帰化植物だそうです。昔、栽培植物になりかけて落ちこぼれた野草ですから、食べることができるのは当たり前ですね



カラスノエンドウ (マメ科)

カスマグサ (マメ科)

スズメノエンドウ (マメ科)

## 5. 会員の声

次回 新会員の内藤さんに活動に参加した感想等お願いしています。

## 6. 里山自然観察隊 (4月19日、隊員 41名、保護者 31名、会員 18名)

### 野草観察 (美濃和 信孝 記)

6年目を迎えた観察隊、今年最初は「食べられる野草」、総勢90名の大所帯でしたが、まずまずの天候の中、無事終わることができました。例年、ビオトープ内にある食べられる野草20種を、ゲーム形式で子どもたちに探してもらいますが、いつも30分くらいで一番早い子は探してしまうので、今年はちょっと難しくして、「カラスノエンドウ」「スズメノエンドウ」「カスマグサ」など、似ていて紛らわしい種類を入れて、子どもたちに頭をひねってもらうような問題にしました。ところが今年も、40分ほどで次々に全問正解者が続出、20問できた8名と、19問の4名、合わせて12名に二俣瀬券を配りました。

タケノコやタラの芽、シイタケなど材料の準備、そして天ぷらを揚げていただいた会員の皆様に感謝いたします。

採取した野草20種 (ハコベとウシハコベは見本を間違ったので訂正してあります)  
シロバナタンポポ、セイヨウタンポポ、ノアザミ、ハハコグサ、オニタビラコ、フキ、ヨメナ、ヨモギ、セリ、タネツケバナ、ナズナ、オランダガラシ、オランダミミナグサ、サワハコベ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、ノビル、ツクシ、ワラビ

## 7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

(1) 今期も合鴨農法を継続する事になりました。既に第一回目の孵化には5羽成功し元気に出番を待っていますが、2回目孵卵は失敗に終わりました。一羽何とか孵化仕掛けましたが死亡しました。

したがって今年も5~7羽購入の予定で進めなくてははいけません。まずは4月30日下関市菊川町の合鴨農法組合にて譲受可否と育て方、排水の事等お伺い調査します。

(2) 平成20年度の会費未納者の方は早めにお納めください。

## 8. 編集後記

今月から又新しい年度の始まりです。総会の時カルガモ、アイガモによると思われる水質の悪化が蓮田から池ゾーンにも及んでいる事を知りました。唯そんな事は考えもせず農薬を使わずおいしい無農薬米が採れ、かわいい鳥の姿に癒されながら楽しんでいました。一羽淋しく残された初代アイガモに今年はもっと増える鳥、水質はどうなるのでしょうか。たんぼの肥料になってくれればいいのですが。ふと、常盤湖の鳥による水質はどうなんだろうかと思いを巡らせてしまいました。

(松本 フデ子 記)